

結晶母

2010年12月号

発行日：2010年12月15日

「結晶ができる時、最初に生まれる結晶。それが結晶母。結晶母の周りに同じ形をした元素が集まって、ひとつの大きな結晶をつくる。ひとつひとつの結晶は小さくても、結晶母を中心に集まった大きな結晶のネットワークは強く、たくましい！ そんな大事な結晶母の役割を、地球に住むひとりひとりが果たせたら・・・」そんな願いを込めて、名付けました。



2010年11月6日 ひと・まち交流館 京都にて

～理事・鬼丸昌也のメッセージ～

すべては一人から始まる。すべては一人から変わる。▼そう信じて、走り続けてきた10年間。立ち止まって振り返ってみると、たくさんの方々の支えがありました。私たちの掲げる理念に賛同・共感して、いろいろな形の支援をしてくださいました。そこには見返りを求めない「献身」のみが存在します。▼これからの10年も、会員の皆さまとご一緒に、世界平和に向けて、歩み続けていきたいと、強く強く願っています。▼すべては一人から始まる。そして、ひとりひとりが集うことで、大きなことを成し遂げられるのです。

目次：

10周年記念イベント特集	p 2～5
カンボジア・ラオス事業報告	p 6
ウガンダ・コンゴ事業報告	p 7
てらね手帳	p 8

テラ・ルネッサンス設立 10 周年記念イベント開催！

「ハート to ハート 一届いた心 繋がる笑顔、そして未来ー」

10月30日（土）名古屋：夢目的施設「本丸ホール」

10月31日（日）東 京：東京ウィメンズプラザ

11月06日（土）京 都：ひと・まち交流館 京都

2010年秋。テラ・ルネッサンスは、設立10周年、NPO法人化5周年を迎えました。それを記念して、全国3カ所で、設立10周年記念イベントを開催いたしました。イベントにあわせ、海外から現地駐在員も一時帰国し、久しぶりに日本人スタッフ全員が顔をそろえました。

名古屋、東京、京都と、3会場合わせて延べ489名の皆様にお越しいただき、多くの方とお会いできました。以前からテラ・ルネッサンスを応援してくださっている方、初めてテラ・ルネッサンスのイベントに参加してくださった方。年齢も職業も性別もさまざまです。そうした方々の想いを受けて、私たちは活動を行っているのだと再認識したイベントでした。

京都会場では、株式会社クリスタル様のご協力を得て、特別講演会「25年間探し求めたウガンダコーヒーの真実 ～Cafe de TerraRenaissanceができるまで～」(講師：勝原正 様)を同時開催。テラ・ルネッサンスで販売しているウガンダ産自然栽培コーヒーにかける勝原様の想いがあふれる特別講演会になりました。

また、10周年記念イベントに先立ち、沖縄での活動報告会が実現。長期にわたりテラ・ルネッサンスをご支援くださる株式会社沖縄教育出版様が、報告会とシンポジウムを開催くださいました。

その他にも、立正佼成会中野教会様・株式会社アイケイ様・ドリームプラン・プレゼンテーション事務局様・救世真教様・松緑神道大和山様においても、活動報告会を実施させていただき、たくさんの方々に、テラ・ルネッサンスの10年の歩みをお伝えすることができました。

10周年記念イベントは終了いたしました。が、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して、これからも一歩ずつ歩み続けていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

「平和・当たり前」を考えるシンポジウム（沖縄報告会）

10月8日（金）沖縄県浦添市「てだこホール」にて、長期に渡りウガンダ事業にご支援いただいている株式会社沖縄教育出版主催「平和・当たり前」を考えるシンポジウムが開催されました。

当会からは、鬼丸がシンポジウムのコーディネーターとして、小川、トシャがパネリストとして登壇しました。その他にも、沖縄教育出版社長・川畑保夫氏、参議院議員・糸数慶子氏、そして当日にコンサートをしていただいた海勢頭豊氏をパネリストに迎え、「平和」とは何なのか。「命」とは何なのか。それぞれの思いを語り合う1時間となりました。

沖縄の地で、「平和」を語り合う。当会にとってもこの日は貴重な機会となりました。また、沖縄教育出版様のご厚意により、当日の参加費は全額当会へ寄付されました。（栗田）

※ 当日の様子はこちらでごらんになれます。

http://www.cha-genki.co.jp/morning/post_250.html



10周年記念報告会 in 名古屋 ～幕開け～



テラ・ルネッサンス 10年目の節目を迎えるにあたり、支援者様へ日頃の感謝を込め、また、次の10年に向けて新たなスタートを切るという気持ちで開催した10周年記念報告会。その幕明けは10月30日(土)名古屋でした。報告会初日ということもあり、本当にたくさんの方々にご来場いただけるのか、スタッフ一同、期待と不安で当日を迎えました。そして、結果は…。私たちの不安をよそに、大勢の方が参加してくださいました。その数92名。ご来場くださった方々の中には、いつもテラ・ルネッサンスのグッズをご購入くださる方、ボランティアとして手伝ってくださる方、また東京や大阪からも多くの方が来てくださいました。そして、いつもご支援やイベントのお手伝いをしてくださるアースネット・なごやの方々に今回もお手伝いいただきました。

ご来場いただいた皆様、お手伝いくださった皆様、ありがとうございました。(吉田)

10周年記念報告会 in 東京 ～熱い想いが集う～



10周年記念報告会第2弾は東京です。テラ・ルネッサンスにとって東京とは。そう、京都が本拠地のNGOにもかかわらず、会員様の数が一番多いのが東京！そして、やはり日本の中心。学生を中心に、国際協力に興味・関心がある人々が多いのも東京ではないでしょうか。

そんな期待をさらに越え、多くの方々にご来場くださいました。長い間ご支援くださる方、鬼丸の講演を聞いた学生や企業の方々、そして、前ザ・リッツ・カールトン・ホテル・カンパニー日本支社長・高野登さんも駆けつけてくださり、ご祝辞をいただきました。

東京報告会には、カンボジア駐在代表の江角、ウガンダ駐在代表の小川、同現地職員のトシャ・マギーが一堂に集い、現地で感じた想いを伝える熱いパネディスカッションも行いました。ご来場いただいた皆様方におかれても、現場の声を聞く、貴重な機会になったのではないのでしょうか。

最後に、東京報告会では、テラ・ルネッサンスがウガンダ事業を始めた最初の頃からお世話になっている自由の森学園の卒業生の皆さんが、ボランティアとして手伝ってくださいました。皆様、本当にありがとうございました。(吉田)

10周年記念イベント in 京都 ～これからの10年に向けて～

11月6日に、「10周年記念イベント『ハート to ハート』一届いた心 繋がる笑顔、そして未来—」のファイナルイベントを京都の「ひと・まち交流館 京都」にて行いました。3ヶ月前から準備をし、直前までドタバタして迎えた当日でしたが、職員やインターン、ボランティアの全員で協力して、無事にイベントを終えることができました。当日は計220名の方々にご来場いただき、当会の活動内容やスタッフの想い、今後のビジョンなどをお伝えしました。

第1部の○×クイズ「テラ・ルネ わかるネ」では、活動内容をクイズ形式で理解いただくために、ボランティアさんを中心に企画し、作成しました。予想していた以上の盛り上がりで、多くの方々に楽しみながら活動を知っていただけたと思います。

第2部のパネルディスカッションは、海外スタッフが参加者の質問に答えるという形式で行いました。当日回収したアンケートに「実際に現地で働いている方の話が聞ける機会は、とても貴重だった」、「自分たちにでも世の中は変えられるのだと思われた」という感想があり、多くの方々にとって印象深いものであったと思われます。

また、鬼丸の講演では、「一人ひとりがやっていくんだというメッセージが伝わってきて、私も自分にできることをやろうと決意した」「支援は大切だけど、根本となる社会の仕組みを変えていかないと世界は変わらないという考えに共感した」という意見をいただき、今までの人生について考えさせられるような講演になりました。さらに「学生であるインターン生がイキイキと活動していて、

頑張っているのがよかった」という感想があり、職員やインターン、そしてボランティア全員で力を合わせて成功できたイベントであったと実感しました。

支援者の方からは「確実にテラ・ルネの輪が広がっているのを実感した」とコメントをいただき、私自身も、昨年の4月からインターンをしており、回収事業の協力者様の数がどんどん増えているのを感じています。

そして、今回のイベントを通して、テラ・ルネは本当に多くの方々に支えられているのを実感しました。そのの方々に対して、「感謝の気持ちを伝え、今後も応援したいと思っていただきたい」という目的の10周年記念イベントに関われたことを嬉しく思っております。本当にありがとうございました。(中山)



※クイズの答えは P8

クイズを出題しています



パネルディスカッション

クイズ「テラ・ルネ わかるネ」



11月6日 京都会場の風景



講演する鬼丸

京都会場プログラム

第1部 クイズ「テラ・ルネ わかるネ」

第2部 パネルディスカッション

コーディネーター：鬼澤慎人氏

出演者：小川真吾

出演者：トシャ・マギー

出演者：江角泰

鬼丸昌也講演会



「ウガンダドレスはいかがですか？」

クラスター爆弾ゼロ ～展望から行動へ～ クラスター爆弾禁止条約第1回締約国会議【ラオス】



2010年11月、クラスター爆弾禁止条約の最初の締約国会議が、ラオスの首都ビエンチャンで開催されました。あまり知られていなかった世界一といわれるラオスの不発弾被害の問題が、普段注目を浴びることの少ないラオスで会議が開催されたことによって、各国政府代表団や NGO 関係者がラオスを訪れ、ニュース記者らがこの会議を報道したことは、問題を世界中の人に知ってもらおう大きな効果があったと思います。

■会議の成果 「ビエンチャン宣言」と「ビエンチャン行動計画」の採択

会議自体は11月9日-12日までの4日間でしたが、会議の合間には NGO やラオス政府などによるサイドイベントが行われ、その中にはラオスの中でも被害の大きいシエンクアン県へ、政府代表団を案内するツアーも実施されました。条約は、クラスター爆弾の使用、製造、保有を禁じ、8年以内の廃棄と10年以内の不発弾除去を定めています。会議では、早期の廃棄・除去開始を明記した「ビエンチャン宣言」や、今後の活動を導く明確な行程表のある「ビエンチャン行動計画」を採択しました。今後、この行動計画をもとに実際の行動に移すことが一番重要です。以下の外務省のページで、詳しい内容をご覧ください。

- ビエンチャン宣言（仮訳）

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/arms/cluster/1011_ky.html

- ビエンチャン行動計画（仮訳）

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/arms/cluster/1011_kk.html

■会議中に起きた悲しい事故

ラオスでは、ベトナム戦争から40年近く経った今でも、平均で毎年約300名の不発弾の死傷者が出ています。この会議の開催中も、悲しい事故が起きたことがラオス政府から伝えられました。会議2日目の10日、ポリカムサイ県で、2人の姉妹が下校途中、道端の草むらにクラスター爆弾の子爆弾を見つけました。拾い上げた妹が放り投げると爆発し、2人の姉妹は全身に破片を浴びました。2人ともその日のうちにビエンチャンの病院まで運ばれ、治療を受けましたが、爆弾の破片を全身に浴びていて、妹は亡くなりました。

■テラ・ルネッサンスのラオスでの活動予定

この会議では、さまざまなクラスター爆弾に関する活動を実施している NGO や政府関係者が集まっており、現在のラオスでの支援の全体像を知ることができました。わずか0.4%しか除去できていないといわれる不発弾除去とともに、被害者の支援が明らかに不十分であり、テラ・ルネッサンスでは、来年初めにさらなる現場調査を行う予定です。（江角）

写真左：会議場に飾られたクラスター爆弾。ラオスで見つかり、不発処理されたもの。

写真中央：会議場の様子。政府代表団だけでなく、NGO やクラスター爆弾の被害者も会議の進行を見守り、会議に加わります。

写真右：会議場のロビーに展示された被害者の支援に関するポスター

5期生が自立に向けての訓練完了【ウガンダ】

ウガンダでは、昨年受け入れた第5期生の元子ども兵38名への1年半のフルタイムの訓練が完了しました。受け入れた当時は、手に職もなく、収入を得ることができなかった元子ども兵が、洋裁、服飾デザイン、手工芸、木工大工の職業技術を身につけることができました。他にも、基礎教育や平和教育を通して、これから自立していくための準備がほぼ整いました。これからは、パートタイムでの訓練を継続していく第5期生もいますが、来年1月には多くが洋裁店や木工所で働き始めます。

グル県では、数年前までは紛争の影響で、人口の9割近くが、国内避難民として外部からの援助に頼らざるを得ない生活を続けており、一般市民でも職を見つけることが困難な状況でした。これから自立に向けて、収入を得ていく5期生の元子ども兵たちの多くは、このような社会状況の中で、みずから小さなビジネスを立ち上げていくことになります。はじめから、すべてが順調にいくかどうかはわかりませんが、元子ども兵たちにとっては、新たなステップに挑戦していくことになります。

同時に、長年、紛争の影響で、国内避難民キャンプや市内で避難生活を過ごしていた最貧困層の住民たち14名も、5期生とともに職業技術を身につけ、自立に向けて歩み始めます。今後、ビジネスを実践する中で、さまざまな困難に直面するかもしれませんが、これまで自立を果たした元子ども兵たち同様、5期生全員が、残りの支援期間中に自立し、近隣の住民と助け合いながら、平和に向けて歩いてほしいと願っています。そのため、現地スタッフ一同、これからも、生徒たちのサポートを続けていきます。(小川)

元少年兵が溶接技術を身につけました【コンゴ】

テラ・ルネッサンスが現地 NGO (GRAM^{グラム}) とともに活動を続ける、コンゴ民主共和国の南キブ州では、2010年11月から武装勢力に対する軍事行動が始まり、治安が悪化しています。一方、そんな中、多くの住民たちは、みずからの生活を守るために必死に生きています。

同地で、兵士として戦いに加担させられてきた元子ども兵たちや、性的暴力を受けた女性たちも、当会からの支援を受けながら、生活を再建するための活動に取り組んでいます。今年6月に開始された溶接加工の職業訓練によって、10名の元子ども兵が溶接技術を身につけることができました。同地(カロング区域)には、溶接技術を持った職人や溶接加工所が存在せず、彼らの技術は地域住民にとっても有用なものです。訓練中にも、近隣住民が「バイク修理に溶接加工する必要がある」ということで、グローブハウスⅢ(プロジェクト実施施設)を訪れ、生徒である元少年兵たちが、未熟ながらも、訓練講師とともに住民のバイク修理を手伝いました。今後、彼らはこの技術を活かして、自分の生活を安定させ、同時に地域住民の生活再建にも貢献していきます。

また、自給食料を生産するための活動においても、12ヶ村で作物の栽培が行われており、昨年同様、みずからの食料を自給するという目標に向けて、日々農作業に励んでいます。あとは、一日でも早く、治安が回復することを祈るばかりです。(小川)



洋裁の練習をしています (ウガンダ)



訓練完了! 修了式にて (ウガンダ)



ただいまバイクの修理中 (コンゴ)

テラ・ルネッサンス 10 周年記念イベントにご協賛いただいた方々（敬称略）

青野 敬子	兼子 隆	鬼澤 慎人	高橋 キクエ
吉田 典子	中村 哲雄	石川 静子	土本 芳広
藤井 恵子	永井 洋子	柳澤 光明	川原 円海
牧口 伸介	池側 恵美子	金星 三代子	隅田 歌奈子
吉村 昌也	中村 貴彦	柴田 早苗	山崎 浩司
岩持 和宏	今井 洋江	伊部 智子	市川 渥史
中熊 賢	太幡 めぐみ	石川 久江	株式会社 豊栖
元日田 清美	植村 智子	栗田 綾子	株式会社 丸忠
代田 千恵子	小川 寛	鈴木 律子	有限会社 アーテック
田中 るみ子	原口 由紀子	福原 正人	株式会社 リヴ
北井 一美	曾山 照代	竹川 和人	株式会社 ジェイ教育システムズ
大高 満里子	濱本 英基	竹川 緑	名備運輸株式会社
明石 耕作	赤城 信一	田口 みどり	株式会社 デミック
鯉田 勝紀	榎本 美由起	林 朋子	医療法人財団献心会 川越胃腸病院
高田 昭二	酒井 達也	横山 真一	食彩工房 団居
中山 守	金子 謙一	富田 裕子	株式会社ゆいまーる

皆様、ありがとうございました。



「ケータイ for コンゴ」 始まる

～要らなくなった携帯電話を送ってください～

テラ・ルネッサンス事務局内では KFC と呼ばれている「ケータイ for コンゴ」。2010 年 9 月から新しく始まったこの事業は、不要になった携帯電話の回収を行って日本国内のレアメタルの再利用を促進するとともに、コンゴで起きている紛争の現状を少しでも一般の方々に知っていただくことを目的としています。

レアメタルは、携帯電話など、私たちが日常生活の中で使っている製品の中に使用されています。しかし、レアメタルは日本では採れません。すべて海外からの輸入に頼っているのです。その一方で、レアメタルが採掘される国の中には、当会が支援するコンゴ民主共和国をはじめ、レアメタルが紛争を行う資金源とされているケースがあります。私たちの生活そのものが、世界の紛争の原因になっているかもしれないのです。この携帯電話の回収事業をきっかけにして、私たちの生活と世界とのつながりを考えてもらう機会となればと思っています。

詳しくは web で！ 「ケータイ for コンゴ」

<http://www.terra-r.jp/congo/>

今年もやります 回収キャンペーン 2010



テラ・ルネッサンスでは、書き損じハガキ、使用済みインクカートリッジを集めているのはご存知でしょうか。そして、年賀状シーズンのこの時期には、回収キャンペーンを行っています。

集めた書き損じハガキと使用済みインクカートリッジは換金して、当会のカンボジア及びウガンダでの事業に活用いたします。

今年度の目標は、未使用・書き損じハガキ 4 万枚、使用済みインクカートリッジ 1 万個。皆様、ご協力をよろしくお願いいたします！
(詳しくは同封のチラシをごらんください)

<編集・発行>

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 5-23-105

TEL&FAX : 075-645-1802

E-mail : contact@terra-r.jp

<http://www.terra-r.jp>

